

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1172700716		
法人名	狭山不動産株式会社		
事業所名	グループホーム見晴らしの家		
所在地	埼玉県狭山市入間川1730-1		
自己評価作成日	平成23年1月6日	評価結果市町村受理日	平成23年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成23年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者にはできる限りホームの外の空気を感じて頂ける様、外出の機会を大切にしている。車椅子使用の方も増えたため、福祉車両を導入して外出支援をしている。また、開設以来、近所の方に耕作の支援をいただきながら庭の畑作りを続けている。収穫物は食卓のぼっており、収穫した野菜の掃除は、利用者職員が協働する良い作業になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「利用者にとって、より良い業務をするには」の発想で、職員が意見を出し、認め合う職場環境作りがなされている。「チョボラ=お話ボランティア」の取り入れなども職員からのアイデアで行われ、利用者にも喜ばれている。また、利用者への食事サービスの取り組みが充実しており、事業所の畑で、利用者といっしょに収穫したものが、食卓に並び、食事を楽しむことができる支援が行われている。
H21年度目標達成計画(運営に関する利用者、家族等意見の反映)について、フロア長やリーダーが、シフトに入らず、フリーで業務を行う日を設けることで、様々な工夫が生まれている。その結果、意見や要望を聴く仕組み作りもでき、環境作りがなされた。また、(災害対策)についても、ショルダー担架を利用して階段を下などの実践的な訓練を実施したり、夜間での避難訓練や地域住民との合同訓練も行われ、住民との協力体制作りが可能となるなど、目標達成に向けた取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり・のんびり・一緒に・楽しく」の理念のもと、母体とのつながりを持った地元で溶け込んだ日常生活を目指している。	事業所独自の理念が創られ、管理者と職員はそれを共有している。特に理念の中の「一緒に」を大切に考え、利用者と職員が一緒に取り組むことで、利用者一人ひとりのできることが活かされるケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	お茶・おやつは近くのお茶屋さんに入居者とともに買物に行く、畑の手入れは隣の方にお願ひする、自治会に加入する等、日常的に交流している。	地域の保育園、中学校、ボランティアなどの積極的な受け入れや、散歩時の近隣の人への声かけなどを通し、地域との関わりを作っている。また、近くの商店への買い物、学校の運動会への参加など、日頃から相互交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防訓練の際は近隣の方に参加のお誘いをしてグループホームの姿を近くで見てもらえるような機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その都度身近な行事などの報告をして、情報や指導をいただいております、ホーム外の方の意見を聞けるので安心感がある。	事業所からの業務報告のほか、参加者からもサービスに関しての意見・提案もなされている。テーマ以外のことでも話し合い、情報の共有を行い、家族からの質問や疑問にも応え、事業所の運営にも活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者は個々の実態を把握しており、丁寧に対応してくれる。	運営推進会議には市担当者が参加しており、事業所の現状やサービスの取り組みについて報告され、意見も伺っている。そのほかの日常業務の相談連携もなされており、良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が理解している。玄関の施錠については防犯上必要と認識しており、入居者の希望に副って、職員付き添いのもと開錠している。	身体拘束廃止について、研修を定期的に行い、職員に周知させている。何が拘束にあたるかを職員同士話し合い、自分からではなく、他者から見たら、どう思われるかを考え、言葉使いを含め、身体拘束をしないケアが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング・勉強会をととして学び、職員自身が気づかぬうちに虐待行為を行なうことのないよう確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用される方が数人おられるので、県社協や事業者協議会の研修で知識を得、ミーティングで報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	電話で質問を受けたり何回も説明の機会を持っている。とくに契約時は時間をたっぷり取っていただき十分に話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口は重要事項説明書で明記しているほかに、「利用者・家族からの意見・要望」として一つのファイルにして反映しやすい管理をしている。	利用者からは日頃の関わりの中で、家族からは面会時や運営推進会議、日々の電話連絡などで、意見・要望を聴き取られている。家族からは利用者個々の相談・質問はよく出されており、情報の交換が行なわれている。	家族からの意見は出やすい環境があると思われるので、より運営に関する意見等が聴取できるような取り組みとして、家族会を開催することなどに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一回は本社総務課長・管理者が職員と個人面談を行なっている。これ以外にも意見があれば月2回のミーティングで提案してもらうよう常々話している。	定期的なフロア会議や個別面談、日々の申し送りノートなどで、意見・提案を聴き取られている。管理者が職員に、絶えず声かけをすることで、言いやすい環境が作られ、また、「思い込み」ではなく、お互いに話し合うことで、運営にも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社総務課長が毎日ホームを訪れ、代表者に報告している。代表者はホームの状況をタイムリーに把握しており、職場環境の整備に活かすことができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	総務課長をとおしてホームの細部まで把握しており、管理者に前端的にまかせてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の事業者協議会やグループホーム協議会に加入して勉強や情報の交換の機会にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は、なによりご本人が安心して居られる場所であると感じて頂ける様にお話を聞くことにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は家族も不安の中で落ち着かない状況で過ごしておられるのか、堰を切ったようにお話になることが多い。お話を聞くことにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時は通所介護を利用されている方が多いが、ホーム入所後に利用できるサービスが極めて限定されることを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	簡単な作業をお願いする際には、作業の必要性を話し、生活に必要なことを共に作業するという印象を持っていただけるような声掛けをしている。畑の野菜の掃除は協働の良い作業になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診は基本的に家族付添いであり、寝具や衣類も家族に用意してもらうこととしてある。事業所はそのための情報提供をしたり、家族の依頼がある際に家族の代行をする立場である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行き着けの美容院や医療機関の継続をしたり、講座の生徒さんが訪問されたりしている。	昔の仕事仲間、生徒、友人などの面会の積極的な受け入れや電話の取り次ぎ、年賀状出しの支援なども行われている。また、馴染みの美容院へ行ったり、商店への買い物に出るなど、関係の継続への配慮がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の自発的なグループ化ができあがっている。レクや行事では座席を指定したり、時々食事は席替えをしている。外出時に車椅子を押ししたり、食事を運んだり特定の方のお世話をお願いしたりする機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後暫くして契約終了になることが多く、その後に相談支援をしたことはない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	記録・カンファレンス・日常の会話から希望や意向を汲み取る努力をしている。言葉で把握できないことも多く、選択範囲を狭めたり、表情から意向を汲み取るようにしている。	利用者一人ひとりと接する機会を多く持ち、声かけを増やし、「いつもそうだから」ではなく、その時その時の訴えを検討し、本人の思いや意向を把握している。意思の疎通が困難な利用者には、これまでの生活歴や仕草、表情などから、汲み取られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用されていたサービス事業所や家族の話から情報を得ている。入居後はご本人の日常の会話のなかから情報を得ることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状況は日内変化が激しく、毎日午前中のバイタルチェックで体調の変化を察知し、外出・入浴などを考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回ケースカンファレンスで個々の介護計画を評価している。医師・家族とは必要時に話し合いの機会を持ち、職員中心のカンファレンスと合わせてサービス担当者会議として個人個人の記録に残している。	本人や家族の要望をもとに、職員が意見を出し合い、必要に応じ、医師の意見も計画に反映させるなど、計画作成担当者を中心にチームで介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に介護計画Ⅱ表を掲示して、日々のケアと介護計画が反映しあうようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	数年前に実施したが、受け入れに問題が生じて現在は中断している、市内の老人いこいの家やミニデイの利用を再計画している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお茶店が、世間話をしながら買物をしたり、散歩の目標地点になっており、日常的な馴染みの存在になってきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	開設以来、訪問診療に来ていただいているクリニック協力により、他の医療機関のかかりつけの方も含め特定健診や予防接種を実施してもらっている。	入居時に利用者や家族の希望を聴き、医療機関の選択をしていただいている。かかりつけ医への職員による受診支援や、通院時の受診記録の書式をわかりやすく整備するなど医療との連携も図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護職はいないが、家族やかかりつけ医に正しい情報が伝えられるように、職員の気づきを受診記録にまとめて、受診時に情報提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に速やかに情報提供し、入院中は家族・病院と情報のやり取りを重ねている。退院時には職員が立ち会い、ホームでの介護等の指導を直接受けることもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に契約終了について説明する際に、終末期の看取りが出来る状況ではないことを説明している。	入居の際に、重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明し、同意が得られている。状態が変化した時は、「医療依存度」を目安に、早めに家族・医師と話し合い、方針を確認しながら、対応がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所の研修計画に消防署の救命救急講習をいれ、定期的を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一番困難な夜間帯での非難訓練を行い、職員は具体的に動けるようになった。地域との協力体制については、運営推進会議でも検討いただいたり、実現に向けて努力中である。	定期的に避難・通報訓練及び救命救急や消火訓練を行い、ショルダー担架を利用して、階段を下るなどの実践的な訓練も実施するなど緊急時に備えている。また、地域住民との合同訓練も実施し、協力体制も整えられている。	災害発生は予測不可能なことから、職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、多くの協力者の確保と役割分担の策定などに向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常性にかまけて不親切な言葉使いにならぬようミーティング時に点検し、基本を忘れないようにしている。	利用者一人ひとりに合わせた声かけや対応をし、個々の人格を尊重し、利用者にとって不適切な言葉はミーティングでも取り上げられている。また、排泄、入浴時など、その都度羞恥心に配慮したケアへの職員の理解も徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択範囲を絞ってお話したり、話題の提供をしたり、働きかけの工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の配置に限りがあり、入居者は全員がそれぞれのペースで行動されるため、休憩時間をずらしたりシフト外勤務の職員を配置したりして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事・詩吟教室・ボランティアとの外出時などは欠かさずメイクしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節行事や誕生祝いなどで理由付けをして食事・食事作りに変化をつけている。(おはぎ作り・おせち作りなど)	利用者の希望に応じて、準備・調理・後片付けなどを担当していただき、職員も一緒に行っている。職員がユニットごとに利用者の声や希望を反映させたメニューを提案し作られているため、食事を楽しむ環境作りがなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外出・入浴・家事作業の前後に必ず飲み物を摂っている。飲み物の種類を多く用意している。食後すぐに居室に戻る方には好物のコーラを届けるなど個々の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	三度の食事・2回のおやつ後、すべての方々の口腔ケアをしている。義歯の手入れ・管理も個人に応じて支援できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便の特徴をつかみ失禁前にトイレ誘導できるようになってきた。個人個人の使い勝手の良い紙パンツやパットの導入や変更もタイムリーにできている。	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣・変化を把握して、適宜声かけを行い、トイレでの排泄や自立に向けた支援が行われている。トイレの手すりに分かりやすい色の目印をつけ、自然に掴むことができるような工夫もなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康チェック表で排便状況を掴み、メニューや水分摂取に活かしている。食事担当者がメニューの点検と改善を行い、ミーティング時に指示・提案している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望は伺うが、基本週2回の入浴はしていただきたいので、家族からの電話で入浴を促すなど声掛けの工夫をしている。	利用者一人ひとりの希望にできるだけ合わせた入浴支援を行っている。また、入浴時間を制限せず、ゆっくりしたペースで入浴できるよう努められており、昔話をしたり、歌を歌ったりなどのふれあいもあり、入浴が楽しみになるよう配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室のベッド使用ができるように布団干しやベッドメイクの時間を調整している。また、居室で休むことができない方々には食堂フロアのソファで休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が頻会に変化する方もあり、薬のセット時・服薬時に複数回・違う眼でチェックしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	男性入居者には体操のリーダーになっていたいたり、ゴミ捨てにいたり、共有部分の掃除をしていただくなどして個別性を実感できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暑い・寒いで戸外へお連れするのはなかなか大変だが、大型スーパーに車で出かけることが多い。また、週一回外出ボランティアの支援で遠出している。	利用者の希望、体調に応じて、買い物、散歩、庭に出るの外気浴などの支援が行われている。また、外出ボランティアの協力を得て、車椅子の利用者も含め、花見や外出に出かけるなど、利用者の希望を尊重した取り組みがなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の購入品はご本人が買物に行き支払いをする、日常の買物ではホームの財布から支払いをするなど、会計をする機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・盆暮れの挨拶などは家族と連絡をとりながら支援している。携帯電話を所持している方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度・明るさは常に注意している。散歩で摘んだ花や職員が持参した花を常にかざっている。	季節の花や利用者と職員とで作った季節の飾りが配置され、利用者が季節感を味わえるよう工夫がなされている。また、食事作りの様子やにおいを感じることができ、家庭的な生活感のある、落ち着いた共用空間作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置や、食事テーブルの席で工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	体調・ADLの変化に応じて居室の様態替えをしている。来客の訪問時に複数が談笑できるようにその都度対応している。	馴染みの家具・飾りを持ち込んでいただき、落ち着いた居心地の良い居室になるよう努めている。仏壇や観葉植物、人形などを持参された利用者もあり、制限は特に設けないことで、その人らしい生活が過ごせる居室への配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手書きの名前を居室に貼るなどして目印を表示している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム見晴らしの家

目標達成計画

作成日: 平成 23年 5月 28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害発生時の地域との協力体制を築く。	①消防訓練実施時に近隣の方に参加を呼びかけることを継続する。 ②自治会の消防団の協力要請をする。	①近隣の方に興味を持っていただける内容にするため、プログラムの工夫をする。 ②運営推進会議で意見をいただいたり、自治会長に相談して、具体的に消防団の協力をお願いする。	10ヶ月
2	10	利用者や家族が意見要望を表現する機会を設ける。	①玄関に設置した「ご要望箱」の存在をアピールする。 ②定期的にアンケートを実施する。	①家族への郵送物にご案内を同封する。 ②秋の交流会前にアンケートを実施して、アンケート結果を交流会でお話する。	10ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。